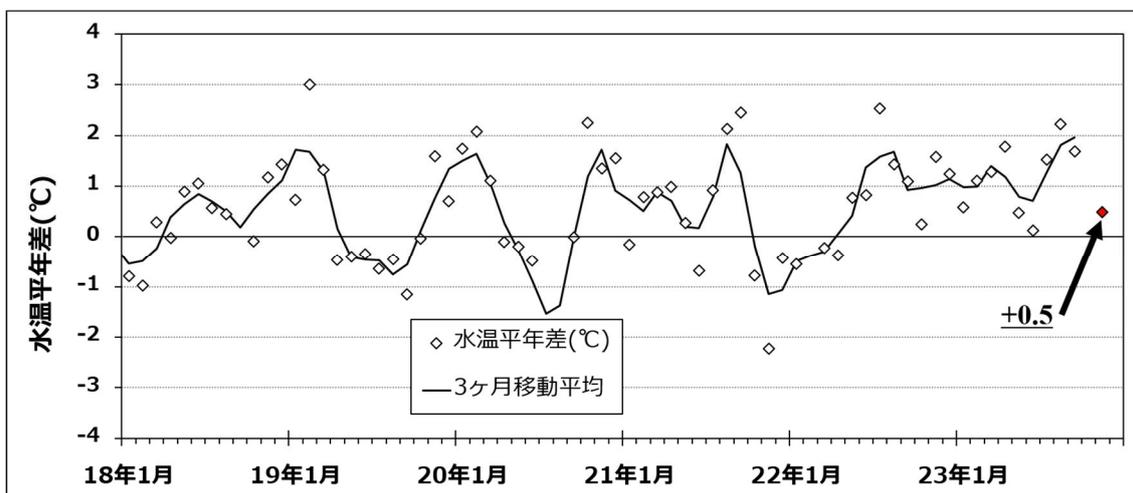


【水温の変動】

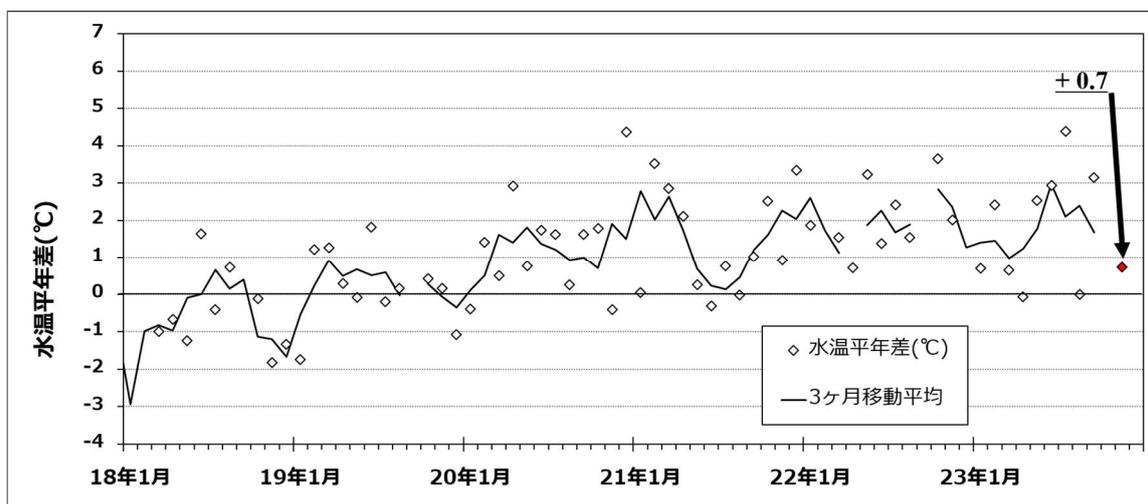
11月15、16日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。湾口部では平年差+0.5°Cで平年並みとなっています。沖合域水深200mでは平年並み+0.7°Cで平年並みとなっています。

11月16日の人工衛星画像によると、黒潮は石廊崎沖北緯31度付近から北上し、石廊崎沖北緯34度付近を通過するA型流路となっています。黒潮が9月観測時と比べて渥美半島沖から東へ離れた結果、高水温傾向は緩やかになっています。

湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



沖合域水深200m（A4, A12, A19の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は過去 10 年平均値との差

【渥美外海の海況】

表層は、黒潮が最南下位置から石廊崎に向かって北上している影響で、渥美半島東部沖合が高水温となっています。湾口部では気温の低下により低温となった内湾水が外海へ向けて広がっています。

鉛直断面図を見ると、表層から 100m 深までは黒潮系の暖水波及の影響で高温の水で覆われています。等密度線によると、全水深で顕著な流れはみられません。また、クロロフィル a 濃度は湾口部にピークがみられるものの、全体的に低濃度となっています。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

